

第 113 回日本精神神経学会学術総会で発表を行い、優秀発表賞を受賞しました (2017/6/22-6/24)

テーマ：メンタルヘルスケア、自殺予防、基礎医学研究
会場：名古屋国際会議場

2017年6月22日から24日にかけて第113回日本精神神経学会学術総会に、当研究所災害医学研究部門 災害精神医学分野の富田博秋教授と富田教授が研究指導する東北大学大学院生の高橋雄太氏が参加しました。日本精神神経学会学術総会は、精神科医療に従事する医師が参加する、日本最大の学会です。

当総会において、高橋雄太氏が下記の2つの発表を行いました。

(演題名は以下のとおり。下線は当研究所所属教員および大学院生、太字は発表者。)

①Fellowship Award Symposium2

Approaches to Suicide Prevention

Title: Suicide Prevention in the Disaster Area of The Great East Japan Earthquake

Yuta Takahashi, Hiroaki Tomita

②精神科専門医研修中の医師による演題（口演）

題目：グリア線維酸性蛋白質遺伝子多型の脳構造への影響の検討

～精神疾患感受性メカニズムの理解に向けて～

演者：高橋雄太、伊藤文晃、竹内光、坂井舞、愈志前、松岡洋夫、瀧靖之、川島隆太、富田博秋

①は自殺予防をテーマとした国際シンポジウムであり、当研究所災害精神医学分野が行っている被災地でのメンタルヘルスプロモーション計画について紹介しました。中国やタイ、アイルランド、サウジアラビア、米国、日本等からの参加者と、各国における自殺予防や、被災地における問題点について活発に意見交換を行いました。②では、災害精神医学分野と東北大学加齢医学研究所が協力して行っている精神疾患のメカニズム究明のための研究を紹介しました。個人間の遺伝子の塩基配列の違いが、脳の構造や機能に与える影響について調べたものです。この発表は、優秀発表賞を受賞しました。これは、今年の約170演題の中から15名に送られた賞です。



国際シンポジウムメンバー
(一番左：高橋雄太大学院生)



優秀発表賞の賞状